

今年の教区の目標

神に希望の錨をおろすなら
すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

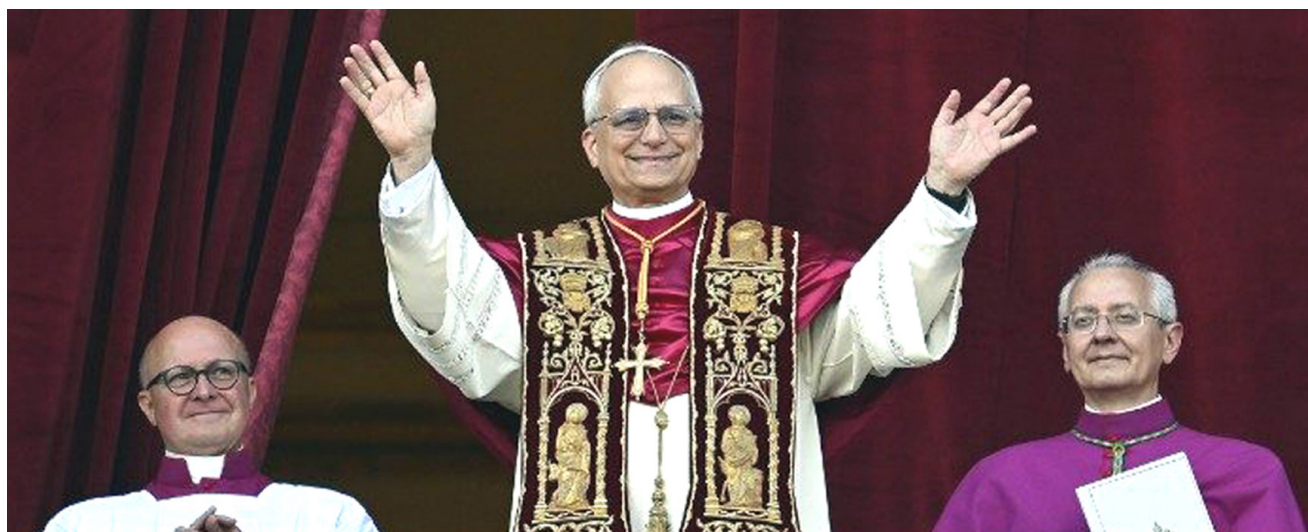
発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年 6月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第799号 (6月号)

第267代教皇にレオ14世を選出



二〇二五年五月八日(木)、コンクラーベ第二日、午後の一回目(第一日から数えて四回目)の投票で第二六七代教皇に選出された新教皇レオ十四世は、午後七時三十三分(日本時間九日午前二時三十三分)にサンピエトロ大聖堂バルコニーに姿を現し、七時二十六分(日本時間九日午前二時二十六分)から三十四分まで八分間にわたり、サンピエトロ広場に集まった人々とインターネット中継を視聴する世界の人々に向けて最初の挨拶を行った。挨拶はイタリア語とスペイン語で行われた。終わりに「アヴェ・マリアの祈り」が唱えられ、最後に「ローマと全世界へ(Urbi et orbi)の祝福がラテン語で行われた。

あなたがたに平和があるように。

愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和で

す。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してください。教皇フランシスコがローマを祝福された、弱々しいけれども常に勇気に満ちた声が、今もわたしたちの耳に残っています。

ローマを祝福された教皇は、復活祭の朝、世界に、全世界に祝福を与えました。同じ祝福を繰り返すことをわたしに許してください。神はわたしたちを愛してください。神はわたしたち皆を愛してください。悪が打ち勝つことはもはやありません。わたしたちは皆、神の手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手をつないで、前に進んでいきましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立つて歩んでください。世界はこの方の光を必要としています。人類は、神とその愛に達するための橋として、この方を必要としています。皆さんもわたしたちを助けてください。

対話と出会いによって互いに橋をかけるために。わたしたちが皆、一つに結ばれて、常に平和のうちにある唯一の民となることができるために。教皇フランシスコよ、ありがとうございます。(後略)

2025 Okinawa Memorial Day Message

Bishop Wayne Berndt OFM Cap.

"Okinawa~ From a Battlefield to a Neutral and Demilitarized Zone of Peace"

This year marks the 80th anniversary of the end of the Asia-Pacific War. On this day, we pray for the eternal rest of all the victims who died in Okinawa and throughout Asia.

Since the defeat of Japan in the war 80 years ago, the words: "Never again!" has been repeated, "over and over again," in Okinawa. From the experience of war in all its ugliness and brutality; from the loss of human dignity and the destruction of everything in Okinawa during the war; the battle of Okinawa came to be remembered as, "an unleashing of all the forces of hell". From all this, Okinawans have learned the utter insanity of war, that irreplaceable life is a treasure, and about the preciousness of live-giving nature. For this reason, we have continued to deny any need for war and have categorically rejected all wars.

However, contrary to the wishes of the people of Okinawa, the threat of neighboring countries has forced the Japanese government to use Okinawa once again in their perceived need to prepare for a future war. Because of this reasoning, Okinawa continues to be subjected to all kinds of human rights violations and acts that trample on human dignity that accompany the presence of a foreign military force on the islands. In recent times, the entire prefecture has been forcibly fortified by our country and its allies, and the people of Okinawa have had their autonomy and human rights violated, as their desire to not allow Okinawa to be turned into a battlefield again has been completely ignored.

The reason we have established this Memorial Day to pray for all the victims of war is not simply to have a commemoration ceremony, but to ensure that we will never again experience war in Okinawa. On this day, we want to feel once again the pain and sorrow of the lives that were sacrificed. We want to respond to the regret, remorse, anguish and grief of those who died, by renewing our vow not to wage war again by aspiring for true peace for us and for our children now.

The Catholic Diocese of Naha hereby proposes that Okinawa become a demilitarized, neutral, and special peace zone as a concrete means of fulfilling our vow not to wage war again through the complete restoration of local autonomy. To achieve this goal, we propose that an autonomous Okinawa reject having armaments and the hosting of military bases. Military bases mean human rights violations and having armaments means preparations for war. Local autonomy will allow Okinawans to make their own decisions on these matters.

By never arming again, Okinawa will be able to build friendly relationships with everyone without being hostile to anyone. It will become the basis for mutual exchanges and the giving of mutual aid. Okinawa will become a place for the peaceful coexistence of humanity with nature. Okinawa will once again become a bridge connecting all nations; the restoration of the ancient ideal of Okinawa as a "Bridge to Nations." We can live in harmony and peace with people from all countries without getting caught up in the struggle for hegemony or hostility between the great powers.

Some may dismiss this proposal as a mere dream and ridicule it. But this is not my own opinion. This is the earnest wish of all war victims and war survivors who, having experienced a war that was so brutal and humiliating, wish that "no one should ever have to go through such a thing again." It is also the wish of those who believe that all life and this world are gifts entrusted to us by the Creator. We believe this, and we are convinced that this is the path we must pursue.

Gracious Father, please look upon the victims of war in Okinawa, all over Asia, and all over the world. Please heal their souls and comfort them in their regret and remorse with your love. Hear their heartfelt pleas and allow us, who live in the present, to fulfill their fervent desire to realize a world of love and peace.

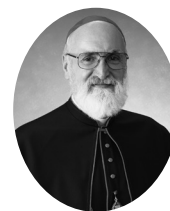
Jesus, your Son, who took upon himself the suffering and death of all humanity, have mercy on us who are enemies of one another. We believe in your love that is nonviolent and embraces everyone and everything without malice of any kind. Let us walk the path of love and nonviolence. May we never give up and make Okinawa a place where your love and nonviolence come together in harmony.

Holy Spirit, fountain of life, fill this world with yourself, and with an outflowing of the love of the Father and the Son. Awaken our reverence for the created world and allow us to share its blessings properly. Lead us to strive for a world of sharing without exploitation and to realize peace on earth where all life is honored and blessed.

Through our Lord Jesus Christ, Amen. (Irei no Hi June 23, 2025 Memorial Day)

2025 年 沖縄慰霊の日

司教メッセージ ウェイン・バーント司教



『沖縄を戦場から非武装中立平和特区へ』

今年はアジア太平洋戦争終結 80 周年の節目の年です。この日、沖縄とアジア各地で亡くなったすべての犠牲者の永遠の安らぎを祈り求めます。

ここ沖縄では、敗戦から 80 年間、何度も繰り返されてきた「二度と繰り返さない!」「二度と繰り返させない!」という言葉が、いまだに繰り返し叫ばれ続けています。沖縄は、「ありったけの地獄を集めた」と言われる戦場のありとあらゆる醜さや残忍さ、人間性の喪失、あらゆるものの破壊の体験から、戦争の愚かさ、かけがえない命の尊さ、そしてすべてのものに命を分け与える自然の尊さを学びました。このことから、私たちはすべての戦争を完全に否定し、拒否する方法を求め続けてきました。

しかし、こうした沖縄の願いとは裏腹に、近隣諸国の脅威を理由に、再び戦争への備えを強いられ、戦闘終結後も続く軍事に伴うあらゆる人権侵害と人間の尊厳を踏みにじる行為に いまだにさらされ続けています。特に最近では、強引な要塞化が県全体におよび、自国とその同盟国によって自治権が侵害され、再び戦場とされるのを拒む沖縄の民意と人権そのものが無視されているのです。

私たちがこの「慰霊の日」を設け、すべての戦争の犠牲者を追悼するのは、単に追悼儀式としてではなく、犠牲とされた命の苦しみと悲しみを二度と繰り返さないため、そして、亡くなった人々の無念と悔悟、苦悩や悲痛に応えて、不戦の誓いを新たにし、真の平和を希求するためです。

カトリック那覇教区は、不戦の誓いを果たし、自治権の完全な回復を実現する具体的な手段として、沖縄が非武装中立平和特区となることをここに提案します。これにより軍事基地に起因するすべての人権侵害と軍備の拒否を成し遂げ、もう二度と、武装しない させないことで、沖縄が誰とも敵対することなく、すべての人と友愛関係を築き、相互交流の拠点、相互扶助の社会、人と自然の共生の場、いにしえからの理想である万国を結ぶ懸け橋『万国津梁』を実現することができるのです。大国間の覇権争いや敵対関係に巻き込まれることなく、どの国の人とも仲睦まじく、平和に生きてゆけるのです。

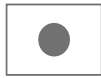
この提案を単なる夢物語と切り捨て、あざ笑う人がいるかもしれません。でも、これはわたし一人の考えではありません。これは、あまりにも残忍で汚辱にまみれた戦争の体験から、「二度とこのような思いを誰にもさせてはならない。」と願うすべての戦争犠牲者と戦争体験者の切実な思いであり、また、すべての生命とこの世界が、創造主から託された賜物だと信じる人々の願いでもあります。私たちはこれを信じ、目指すべき道だと確信します。

慈しみ溢れる父よ、この沖縄の地、またアジア各地、そして全世界の戦争犠牲者をかえりみてください。彼らの無念と悔悟をあなたの愛で癒し、慰めてください。その切なる願いを聞き入れ、今を生きるわたしたちに、彼らの悲願である愛と平和な世界を実現する使命をまっとうさせてください。

全人類の苦悩と死をその身にお引き受けになった御子イエスよ、互いに敵対する私たちを憐れんでください。徹底した非暴力をつらぬき、あらゆる悪意に対立することなくすべてを包み込んだあなたの愛を信じます。その愛と非暴力の道を歩ませてください。決して諦めることなく、沖縄をあなたの愛と非暴力の交わる場とすることができるよう。

いのちの泉である聖霊よ、父と子の愛の溢れ出であるあなたご自身でこの世界を満たしてください。被造界への畏敬を呼び覚まし、その恵みを正しく分かち合わせてください。収奪のない、分かち合いの世界を目指し、すべてのものが満たされた地上の平和を実現できるよう、私たちを駆り立ててください。

わたしたちの主イエス・キリストによって アーメン。



沖縄 慰霊の日 カトリック那覇教区



第39回平和巡礼

過去の歴史を教訓として受け止め、信仰の原点に立ち戻り、すべての善意ある人々と手をたずさえて、平和な世界の実現に向かって、信者として責任を果たしていくことを、強く決意いたしましょう。(日本司教団「平和の決意」より)

終戦後 80 年を迎える今年の平和巡礼には、菊地枢機卿様と前田枢機卿様、中村大司教様と他 12 人の司教様方が小禄で共に早朝ミサを捧げ、魂魄の塔での集会にも参加されます。心合わせてお祈りいたしましょう。

2025年6月23日(月)

小禄教会で、午前6時からミサを行い、小禄から魂魄の塔まで巡礼します。巡礼コースは都合に合わせて途中からでも参加できます。(全行程 14.7km)

巡礼コース

小禄教会聖堂	6:00	早朝ミサ
↓	7:00	出発 (ご案内・挨拶・祝福など)
4.1km		※ 各自の都合に合わせて途中参加できます。
翁長コンビニ前	8:10	集合 (証言と祈り)
↓	8:30	出発
5km		
グループホーム千寿前	9:40	集合 (証言と祈り)
↓	10:00	出発
4.2km		
ひめゆり会館駐車場	11:00	集合 (証言と祈り)
↓	11:20	出発
1.4km		
魂魄の塔	11:50	集合 (平和の集い・司教メッセージ)
	12:15	解散

※ 多少時間がずれることが予想されます。※ 解散後の帰路は各自で確保をお願いします。

2025年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2025年5月13日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

出席者：ウェイン司教、押川名誉司教、クレーバー神父、デニス神父、サニー神父、ロドニー神父、ボスコ神父、フランシス神父、ブイ神父、マイケル神父、ピーター・チェ神父、浜崎神父、石垣助祭、マーシーさん、津波古聡、新田選。

欠席者：ヨアキム神父、紙崎神父、マキシム神父、ナビーン神父、リカルド神父。

1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(4月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - ー マキシム神父、4/21～5/27、休暇のためインドへ。
 - ー ナビーン神父、4/22～5/22、休暇のためインドへ。
 - ー リカルド神父、4/30～5/13、休暇のためフィリピンへ。
 - ー ヨアキム神父、5/12～5/23、休暇のためベトナムへ。
 - ー デニス神父、5/19～6/18、休暇のためインドへ。
- ・ 人事異動で新しい赴任先に派遣される司祭たちに、ウェイン司教から任命書の交付が行われた。
石垣教会ーフランシス神父。宮古教会ーピーター・チェ神父。安里教会ーブイ神父。コザ教会及び具志川教会ーロドニー神父。
開南教会ー浜崎神父。泡瀬教会ーヨアキム神父。
- ・ 3教区合同黙想会について津波古事務局長から説明が行われた。6月2日～6日までの日程で、奄美大島で開催される。今回の参加対象は教区司祭と助祭のみだが、新着任の浜崎神父と紙崎神父は他教区であっても教区司祭なので、参加者に含まれることが報告された。
- ・ 長崎教会管区会議の報告がウェイン司教から行われた。教区再編について提案があったが、長崎教会管区内の2つの教区が再編推進だが、他3教区は現状のままを希望しており、協議は打ち切りとなったことが報告された。
- ・ サニー神父から研修のためフィリピンに暫く帰国することが報告され、これまでの協力に感謝の言葉が述べられた。
- ・ その他、いくつかのお知らせやポスターが各小教区に配布され、教区事務所を通じて配布されるこうしたポスターやお知らせは、取捨選択することなく必ず教会内の掲示板等に貼って、適宜信徒たちにお知らせするよう津波古事務局長から要請が行われた。

2. 審議事項

- ・ 6.23「平和巡礼」について、担当のブイ神父から日程の説明と準備状況が報告された。戦後80年の区切りの年に、日本の司教団13人も参加されることになり、通常行っている平和巡礼に加え、徒歩での巡礼に加われない司教たちのために別のプログラムを用意することや、毎年巡礼コースを継続して歩いていくことが報告された。また、津波古事務局長からは、小祿教会でのミサ会場の準備を主任のマキシム神父が担当し、ミサ典礼については、教区の典礼担当者のマイケル神父が担当、司教団の行程に関しては、押川名誉司教と津波古が担当することが報告された。
その他担当になっていない司祭たちにも、教区行事として行うこの日の慰霊行事に積極的に参加し、ホスト教区の一員として協力されるよう要請が行われた。
- ・ 「子どもと女性の権利を擁護する会議」に参加してきた、教区事務所の宇根さんから、全国会議で討議されたことや、司祭たちの何気ない一言でも大きく傷つけてしまう事例があること等が報告され、司祭たちへの注意喚起が促された。教区においては宇根さんとマーシーさんがハラスメント等の相談窓口となるが、特に携帯電話を使ったメール等のやり取りは誤解も生じやすいので、司祭たちは重々気を付けるよう呼びかけが行われた。
- ・ サマーキャンプについて、担当のブイ神父から報告が行われた。8/1～3日まで小学生。8/11～13、中高生を対象にキャンプを計画していることが報告された。テーマは「希望の人」とし、教区報に募集要項を掲載して呼び掛けるが、各小教区での参加促進が強く要請された。
- ・ 司教予定が報告された。
 - 5/18、名護教会公式訪問。5/24～25、宮古島平良教会・保良教会公式訪問。6/2～6、三教区合同黙想会参加、奄美へ。
 - 6/15、泡瀬教会公式訪問。6/29、開南教会公式訪問。6/16～20、定例司教総会のため東京、潮見へ。

※次回司祭助祭拡大会議は6月10日(火) 午前10時から、安里の教区センターで開催される。

今年 4 月から那覇教区に派遣された浜崎眞実神父様



1964 年熊本生まれ。ルーツは奄美大島 笠利町出身。

1995 年司祭叙階。奄美大島で 6 つの教会を担当

2000 年静岡市の教会で働く

2008 年川崎市鹿島田教会を担当

2009 年相模原市相模原教会を担当

2018 年横須賀市三笠教会、大津教会を担当

5 年前、2020 年 9 月の「南の光明」に「司祭叙階 25 年にあたり」とタイトルする文章を寄稿されておられました。結びの言葉を掲載して、着任された神父様のご紹介に代えます。

25 年前司祭叙階の記念のカードには、マタイ 9 章 13 節から『わたしが求めるのは憐みであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい』との箇所を選び記した。当時「行って学びなさい」が気になっていた。25 年を振り返ると、出向いて行くように促す風がどこからか吹いてきてそれに乗っかっていたように思う。いつの頃からか、わたしの周りには不思議な風が吹いているように感じてきた。それは「境界線」に立つときに起こるようだ。これからも出向いて行くように促す風は吹いてくるでしょう。さまざまな出会いや経験を通して学んだことの一部を紹介させていただいた。

25 年前、1 月に阪神淡路大震災が起き、3 月には地下鉄サリン事件が起きた。その直後に叙階を受けた。今年も新型コロナウイルス問題で世界中に激震が走り対応に追われ、不安が広がっている。何かとお騒がせな巡り合わせを生きているようだ。こういうときだからこそ、個人の不安や恐怖心から社会が曖昧さを許容できなくなり排除の境界線が強化されることのないように向き合い続けたい(2020 年司祭叙階 25 年にあたり)。

神父様、よろしくお願いいたします。

ご協力のお願い

1949 年、ほとんど信者が残っていなかった沖縄で再開されたカトリック教会は、1973 年 2 月 11 日に那覇教区となり宣教活動を続けています。これまで多くの司祭や修道者、各修道会、信者の皆様に那覇教区で活動して頂きました。聖年を迎え「那覇教区の活動を振り返る機会があったらいいね!」の声があり、その 1 つの手段として写真展を企画しております。そのために各家庭に保存されている「写真」を提供して頂きたいと思っております。対象になるのは教区の日、献堂式、叙階式、誓願式、大聖年関連、聖体大会、クルシリオ、マリア祭、平和巡礼、聖書週間作品展、聖書展、講演会、カトリック書道展、黙想会、研修会、サマーキャンプ、女性の会、青年会、壮年会、県民クリスマス、キリスト教一致祈祷集会、その他地区主催の関連行事に関する写真がありましたらご提供頂きたいと思えます。尚、対象のものがわかりにくい場合は、お気軽にお問合せ下さい。写真の裏には撮影日付、お名前とご連絡先、返却の要・不要をご記入下さい。希望の巡礼者として未来へ動き出すためのきっかけになればと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

募集期間:5 月 1 日から 8 月 30 日

連絡先 カトリック泡瀬教会 山田圭吾(090-1344-5702)

写真受付 カトリック文化センター (098-868-6469 担当・崎山利香)

教区 NEWS 教会

母の日、司教様公式訪問 & 堅信式 新聖堂献堂十周年

名護教会

去る五月十一日(日)は母の日で、神父様から祝福をいただき、ミサ後は男性の会からの大きなケーキのプレゼントが贈られ、みなでお祝いました。お母さん方への感謝の気持ちが進められたケーキは、甘くてとてもおいしいと好評でした。

また五月十八日(日)は司教様の公式訪問の日で、司教様とともにマリア祭を行い、名桜大學生の方へは堅信を授けていただきました。ミサ後は、新聖堂献堂十周年のお祝いと、堅信のお祝いも兼ねて、一品持ち寄



りの祝賀会が行われました。司教様のお誕生日を祝って、みなでハッピーバースデーの曲を歌い、マイケル神父様のギターに合わせて、声を合わせて聖歌も元気に歌いました。お母さん方の美味しい手料理を堪能しながら、とても楽しく和やかなひと



時を過ごすことができ、司教様をはじめ、神父様、シスター方、参加されたみなさまに心から感謝します。ありがとうございます。新しい聖堂ができて十年となった今年、この聖堂にもつと多くの信徒が集うために、また名護教会が人々に開かれた教会となっていくために、わたしたちに宣教への熱意と勇気を与えてくださいますよう、神さまに祈っていきたいと思います。

(渡慶次純栄)

聖年の希望へと

ー受洗の喜びー

宮古島平良教会

四月十九日(土) 主の復活徹夜祭の喜びの日に三名の若者が受洗されました。ヨアキム神父様の指導のもと、この輝かしい日を迎えた三名の方。

ヤコブ 菅家 誠

ヨハネ 上里 新悟

ペトロ 洲鎌 巧

その上、この日は他府県の友人知人も参列されたので、喜びがひとしお参り出ていました。

三名の共同体メンバーに惜しまない祈りを共に捧げ、共に主

に向かうことに感謝し、希望の光へと歩む教会の姿が見えるような復活祭でした。希望は欺かない(聖年公布の大勅書)。

(伊志嶺節子通信員)



洗礼おめでとう ございます

開南教会 (二月十六日)

ガブリエル 金城 剛

与那原教会 (四月十九日)

アシエル 野原 隆幸

ラファエル 松田 隆成

ロザリア 山城 和江

クララ 村田 典枝

石川教会 (四月十九日)

マリア 喜屋武麻里子

石垣教会 (四月二十日)

幼児洗礼 マルコ 北脇 碧

テーマ: 希望の人となって Become a Person of Hope

小学生(小3~小6) 8月1日(金)~8月3日(日)

Elementary: August 1~3

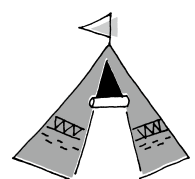
受付(Opening) 13:00

中高生 8月11日(月)~8月13日(水)

Junior high school & High school

受付(Opening) 13:00

第56回(2025年) 那覇教区 サマーキャンプ



計 報

◆石垣教会 ベロニカ 玉城 文子 様 二〇二五年三月二十三日帰天 享年八十八	◆愛楽園教会 マルタ 宮里千代子 様 二〇二五年五月四日帰天 享年七十七	◆開南教会 モニカ 佐藤 泰代 様 二〇二五年五月十七日帰天 享年六十九	◆小祿教会 エリザベト 渡口 文子 様 二〇二五年五月十九日帰天 享年九十五	カトリナ 宮良 和子 様 二〇二五年五月十九日帰天 享年九十一
---	---	---	---	---------------------------------------

2025年度

那覇教区女性の会
第51回総会

日時：6月15日(日) 午後2時

場所：カトリック安里教会

6月

一日黙想会へのご案内

指 導 者：浜崎眞実神父様

テ ー マ：イエスは言われた

日 時：2025年6月14日(土) 受付 9:30

受 付：9:30

講 話：10:00～11:00

個人黙想：11:15～12:15

昼食・各自：12:15～

分かち合い：13:00～14:00

ミ サ：15:00～

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
 聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
 連絡先：098-945-2354 098-945-8649

30分間傾聴
スペース

(30min.of Listening space)

お待ちしております！



開催日：6月15日(日)

時 間：14:00～16:00

カトリック文化センター (☎098-868-4649)



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営 業 日 24時間365日(緊急対応含む)

那覇教区子どもと
女性の権利を擁護するデスク

相談窓口

☎098-863-2020

火・水・木

13:00～17:00



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
 そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

